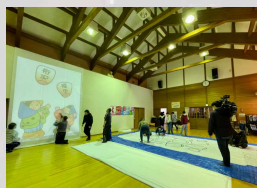


笑顔をつなぐ スマイルレールトリップ

紙風船を守る地域



大雪が降る12月末、毎年2月10日に開催されるこの地域の伝統行事「紙風船上げ」に向けて準備に賑わう「桁沢・福田地域」の皆様のもとお邪魔しました。3m×8m程の大きな和紙いっぱいのイラストを完成させる為、下書きから絵の具の色の調合、色付けまで全員で力を合わせ、全て手作業で行います！皆さんの一体感と手際の良さに、自然と伝統が染みつき受け継がれている事を感じます😊

急遽、色付けを体験させて頂きました。作業中、会館の近くで車が雪にハマってる!!!!と情報が入ると皆さん、一目散で「助けねば！」と言ひ外へ。優しさが当然のように伝染している、この地域の魅力をしみじみと感じた瞬間でした😊



2.10上松木内紙風船上げ

今や真冬の一大イベントの「紙風船上げ」伝説では、江戸時代の科学者である平賀源内が熱気球の原理を応用した遊びとして伝えたと言われています。その後、正月休みの退屈しのぎに遊びとして風船を上げていたものが次第に目的を持たせる為、小正月行事「むしやぎ」に紙風船上げを取り入れ”家内安全・無病息災・五穀豊穰・商売繁盛”等の願いを託して風船を上げるように。萱葺屋根に萱の雪囲いをしている中、火の付いた風船を飛ばすには条件が悪く、泣く泣く中止をしていた期間もあったが1974年の豪雨災害をきっかけに本格的に復活。住民たちが「変わったごとでもやって、元気を取り戻すべ!」「んだな!ひとつ厄払いでもするが!」と、実に20年振りに夜空のきらめきが復活したと言う。長い歴史の中で常に町が一体となり苦難を乗り越え、今日に至ったことを考えると一層、胸が熱くなりますよね。



桁沢・福田地区の皆さま
あべけいた
代表 阿部慶太さん

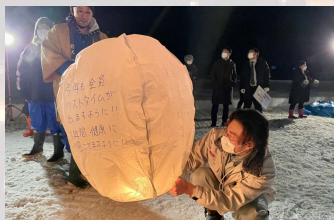
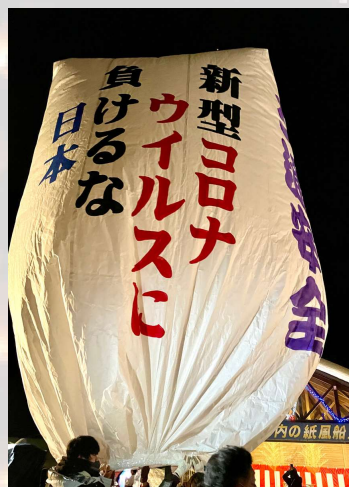


バーナーで熱を加えます。熱気球の原理と同様に風船内に溜めた熱の力で浮力を生み出しています!

空へ



いよいよ、雪に囲まれた静かな夜に温かいオレンジの輝きを放ちながら続々と紙風船が空に舞い上がっていきます。打ち上げの瞬間には自然と歓声が上がり、幻想的な風景を魅せてくれます。伝統の武者絵や美人画に加え、寅年に因んだ虎柄や、カラフルな風船、思い思いの願い事が描かれた風船等、皆さんの想いを乗せた風船が上がっていきました。「コロナに負けるな」の文字には力強さを感じます。



会場が秋田内陸線の上桧木内駅からすぐ近くという事もあり、1年で最も列車の利用者数が多いのがこの風船上げ当日の2月10日。来場者はなんと一晩で10,000名超え!! 県内外から多くの人が集まり、賑わいを楽しみながら打ち上げの瞬間を待つそうです。今年はコロナウイルス感染対策の為、観光向けのお祭りは中止となり、文化伝承の為、集落ごとの開催でした。小規模開催でしたが、冷たく澄んだ空気の中に浮かぶ灯りは時間を忘れる感動がありました☆来年こそは、多くの方がこの美しさを目にし笑顔が広がる日が戻ることを心から願います。雪中の紙風船の温かみ、目の前を通る秋田内陸線との共演を是非お楽しみください♪

なか志ま旅館



なかしまかつこ
女将 中島勝子さん



食堂の名物
宝仙ラーメン



勝子さん特製
おいなりさん

上桧木内駅から徒歩15分に位置する「なか志ま旅館」女将の勝子さんにお話を伺いました。旅館の歴史はなんと100年以上。勝子さんが角館から嫁いできた後、旅館を食堂と勘違いしたお客様からの問い合わせが多くあった為、食堂を営むことを決意。その日からは既に50年の年月が経過。当時は国道も通っておらず、景色や雰囲気も今とは全く異なると懐かしそうな表情を浮かべ、お話してくれました。



内陸線との関わりも深く、過去にはごっつお玉手箱列車や、まほろば列車への乗車、時にはホームで駅弁販売など大活躍だったそう。この町一番のイベントである「紙風船上げ」の際にはお祭りで提供するお料理に徹する為、自身は風船上げを見たことがないというので驚きです!!黒子に徹し皆が満足し、楽しめるようにと考える勝子さんの考えには心を奪われます。食堂名物の「宝仙ラーメン」は月夜の玉川ダム(宝仙湖)をイメージして作られた具材たっぷりの名物メニュー!!是非一度お試し下さい♪